

知財実務におけるClaude Cowork活用ガイド：生産性とガバナンスの最適解

Claude Coworkはローカルファイル操作や自動実行に長けた強力なツールですが、監査ログの欠如という知財業務上の致命的な制約があります。本ガイドでは、リスクに応じた「環境の使い分け」と、専門職としての「善管注意義務」を果たすための運用設計を提示します。

高リスク業務は「統制型AI」を優先

出願前発明や係争案件は、監査ログとデータ保護が保証されたEnterprise版ツールを使用する。

Claude Coworkは「作業場」として活用

秘匿性の低い資料の整形、ドラフト作成、比較表作成などの定型作業に特化させる。

専門家による「人間レビュー」の必須化

AI出力の正確性は保証されないため、弁理士による原典突合と承認記録を必ず残す。

Claude Cowork

監査ログ・証跡：対象外（端末保存のみ）
主な得意領域：ローカルファイル直接編集
知財リスク対応：低～中リスク領域に限定

統制型AI（M365/Gemini/ChatGPT Ent.）

監査ログ・証跡：組織による管理・長期保持が可能
主な得意領域：組織内ナレッジ統合・DLP連携
知財リスク対応：高機密・規制対応業務に適合

知財ガバナンスの実装チェックリスト



専用フォルダによる最小権限アクセス
Coworkには専用作業フォルダのみを参照させ、PC内の広範なデータへの接触を避ける。



コネクタ（MCP）の事前審査制
外部ツール接続時は、第三者規約やデータ保持方針を法務・知財部門で審査する。



スケジュール実行の制限
無監視での自動処理は、要約や整理などの低リスクな定型業務のみに限定する。